

経営学委員会・総合工学委員会合同
サービス学分科会 社会におけるサービス学の役割とその振興に関する小委員
会（第24期・第7回）

議 事 次 第

1. 日 時 令和1年8月27日(火) 16:00 - 18:00
2. 会 場 明治大学駿河台キャンパスグローバルフロントビル 3階会議室
https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/campus.html
- 3 議 題
 - 1) 提言の内容に関する討議
 - 2) シンポジウムについて
 - 3) その他
4. 配布資料
 - 資料1 小委員会委員名簿
 - 資料2 第6回小委員会議事メモ
 - 資料3 提言の構成案
 - 資料4 提言内容 ver1.1
 - 資料5 公開シンポジウム計画案

以 上

資料 1

社会におけるサービス学の役割とその振興に関する小委員会委員名簿

		氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
1	委員長	西尾チヅル	筑波大学ビジネスサイエンス系 教授	第一部会員
2		新井 民夫	技術研究組合国際廃炉研究開発 機構副理事長	連携会員
3		瓜生原葉子	同志社大学商学部准教授	連携会員
4		新 誠一	電気通信大学情報理工学研究科 教授	連携会員
5		仙石 正和	事業創造大学院大学 学長・教 授	連携会員
6		水流 聡子	東京大学大学院工学系研究科特 任教授	連携会員
7	幹事	戸谷 圭子	明治大学大学院グローバル・ビ ジネス研究科教授	連携会員
8		宮崎久美子	東京工業大学環境社会理工学院 教授	連携会員
9	副委員長	村松 潤一	岡山理科大学経営学部教授	連携会員
10	幹事	山田 秀	慶應義塾大学理工学部管理工学 科教授	連携会員
11		吉瀬 章子	筑波大学システム情報系教授	連携会員

資料 2

経営学委員会・総合工学委員会合同 サービス学分科会

社会におけるサービス学の役割とその振興に関する小委員会（第24期・第6回）

議事録メモ（案）

1. 日 時 平成 31 年 7 月 16 日（火） 14：00～18：00

2. 会 場 筑波大学東京キャンパス 6階614修士研究室

3. 出席者

新井民夫、新誠一、仙石正和、戸谷圭子、西尾チヅル、村松潤一、
山田秀（五十音順、敬称略）

欠席者：瓜生原葉子、水流聡子、宮崎久美子、吉瀬章子（五十音順、敬称略）

4. 議事概要

1) 提言の構成案の確認

西尾委員長より、提言の構成案について説明があり、議論を行った。構成について合意した。

2) 提言作成に関する討議と今後の進め方

西尾委員長より、提言の各項目で記載すべき内容について原案の説明があり、議論を行った。若干の目次タイトルの変更のほか、執筆担当者を決定し、今後のスケジュールについて確認した。

スケジュール

2019年8月27日：小委員会開催 骨子となる2章原案の議論・確認

2019年9月末頃：サービス学分科会を開催し、提言内容審議

2019年12月末：提言の執筆完了、分科会承認、査読手続き

2020年2月末：親委員会の査読・承認

2020年3月：シンポジウム開催

議論の概要(敬称略)

- 新：サービスの与え手（受け手）としての企業・組織（消費者・市民）の役割と課題、という表現の企業・組織を削除したほうがよい
- 新：民主主義は技術が未熟だったために企業と市場を中心に発達した。
- 村松：企業も消費者もアクターと呼ぶとしても、
- 新：1.1 はあとで書くのがよいのでは？
- 新井：2章のタイトル、サービス学が目指す、でよいのか？
- 西尾：「目指すべき社会像とサービス学」に変更
2.1 は「目指すべき社会像」に変更
- 仙石：全てがつながるわけではなく、ある範囲に限定されるのでは？
- 新：前提としては信頼が必要。誰とでも繋がるとよいわけではない。
- 西尾：双方のリテラシーも必要。
- 村松：西洋と日本の違いもいれるべき
- 新井：日本は特殊なので、いれなくてもよいのでは？
- 新：ページ数は6ページだから
- 西尾：タイトルの精緻化が必要
- 西尾：2.3 は3章につながるような形で、既存分野の横串を意図
- 西尾：IT・品質などの専門用語は専門家が多い。
- 新井：未定義の言葉はなるべく少なくしないと査読が大変。
- 西尾：教育学のほうとのすり合わせは後で。
- 新：時間も限られているからできるところから作成するのでよい。
- 西尾：締め切りは8月24日(戸谷・村松)

執筆担当

- 第1章：1.1 未定 1.2 戸谷
- 第2章：村松
- 第3章：教育小委員会
- 第4章：4.1, 4.2 新井

3) シンポジウムについて

提言に関するシンポジウムは、サービス研究者や関連する実務家の多く集まるサービス学会 2020 年 3 月国内大会と相乗りのかたち（オーガナイズドセッションとして）で行うことを決定した。

4) その他

次回小委員会は8月27日 16:00 から
遠隔参加可能な形で行う

5. 配布資料

資料1 小委員会委員名簿

資料2 「社会におけるサービス学の役割とその振興に関する小委員会」、「サービス学の教育実装に関する小委員」(第24期・第5回)会合同会議議事録

資料3 「提言」の構成案 Ver. 2.1

資料4 公開シンポジウム計画案 Ver. 2

以上

資料 3

「提言」の構成案 Ver. 2.2

1. サービス学がもたらすビジネス・社会変革 (最大で 4 頁程度)
 - 1.1 ビジネス・社会変革と技術革新 → 「社会性」
 - 1.2 サービス社会における企業・組織、消費者・市民、教育現場の現状と課題
 - 1) サービスの与え手の役割と課題 → 「社会性」：戸谷先生
 - 2) サービスの受け手の役割と課題 → 「社会性」：戸谷先生
 - 3) 人材育成としての高等教育機関の現状と課題 → 「教育実装」
2. めざすべく社会像とサービス学 → 「社会性」：村松先生 (最大で 6 頁程度)
 - 2.1 めざすべく社会像
 - 2.2 サービス学とは：価値共創の論理
交換価値と利用価値、経済的交換と社会的交換、サービスの相互作用プロセス、サービスの社会システムとモノ／サービスーズの経済システムとの連動、サービスプラットフォーム、サービスエコシステムの要件 など
 - 2.3 サービス学の「領域」
3. サービス学の教育方法 → 「教育実装」 (最大で 6 頁程度)
 - 3.1 国内外における教育実装の展開事例
 - 3.2 教育実装の方法と必要な体制
 - 3.3 サービス学の参照基準の使い方と評価方法
4. サステナブルで個人が主体的に活躍できる社会の構築に向けて (最大で 3 頁程度)
 - 4.1 市民の役割 → 「社会性」：新井先生
 - 4.2 産業界の役割 → 「社会性」：新井先生
 - 4.3 国の役割(望ましいサービス社会実現のために必要な国の支援) → 「教育実装」

用語の説明

参考文献

参考資料 1：審議経過

参考資料 2

公開シンポジウムの計画案 Ver. 2

1. シンポジウムの必要性

学術会議では提言にあたり、内容について、関連するステークホルダーに広く公開して意見を収集し、必要な改訂を行うことが求められている。

2. 開催日程→ 修正案

本来であれば、提言の取りまとめの前に、予め、シンポジウムを開催し意見聴取することが主流となっているが、提言の対象となるステークホルダーから、広く、かつ、専門的な意見を聴取するために、2020年3月に開催される「サービス学会」の中で、オーガナイズドセッション(現在のところ OS 1 枠(2時間程度)を予定)として、以下の3のような内容で完成版の提言内容を広く公開し、適切性の評価を得る。

3. シンポジウムの内容

(1) 提言内容の説明について、関係するステークホルダーの意見聴取が必要

- ①「サービス学がめざす社会像と論理」および「参照基準」の説明
- ②サービス学の教育実装の方法の説明

(2) パネリストによるディスカッション

パネリスト候補者

- ・製造業またはサービス業において相互作用を醸成する設計論理の現状と課題について話題提供してくれる人
- ・大学等の高等機関における教育従事者
- ・その他